

2017年上半期 映像ソフト市場総括

GfK ジャパン(東京: 中野区)は、2017年上半期(1-6月)のセル映像ソフトの販売動向を発表した*。

【概要】

- ・2017年上半期のセル映像ソフト販売は数量、金額ともに前年比二桁減。
- ・UHD Blu-rayソフトは4億円超と順調に推移。
- ・2017年下半期のBlu-rayソフトは、ヒット作の発売などにより市場回復の見込み。

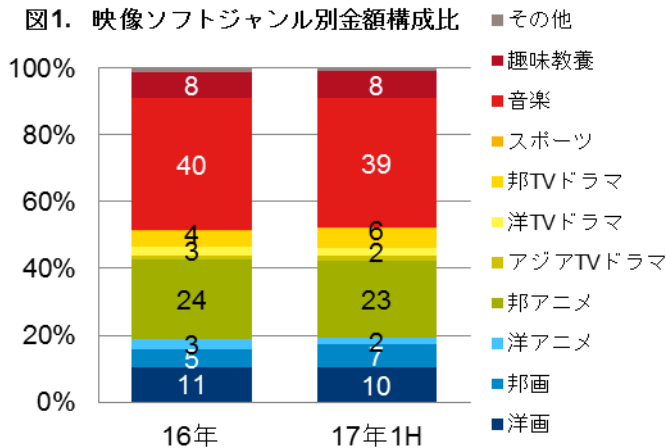
【2017年上半期 映像ソフト全体】

2017年上半期のセル映像ソフト市場(通常DVD、Blu-rayなど全て含む)は数量では前年比14%減の1,723万枚、金額では同10%減の826億円となった。2016年通期ではやや改善された縮小幅が再び拡大する形となった。

販売チャンネル別金額構成比は、Eコマース58%、メディアストア27%、家電量販店6%となった。最大チャンネルであるEコマースが前年通期から1%ポイント拡大した。

ジャンル別金額構成比では、主要ジャンルである、音楽、邦アニメ、洋画がいずれも構成比を下げた(図1)。この一方で、「シン・ゴジラ」の発売があった邦画と、「逃げるは恥だが役に立つ」のBOX版が発売された邦TVドラマが、それぞれ前年通期から2%ポイント拡大した。

図1. 映像ソフトジャンル別金額構成比



【Blu-rayソフト】

2017年上半期のBlu-ray(以下BD)ソフトは数量前年比8%減の736万枚、金額前年比6%減の425億円となった。映像ソフト市場に占めるBDソフトの金額構成比は51%であった。販売チャンネル別金額構成比は、Eコマース65%、メディアストア21%、家電量販店7%となった。

ジャンル別金額構成比では、最大ジャンルの邦アニメが33%と前年通期から1%ポイント縮小した。また、前年に大きく拡大した音楽は前年並みの32%を占めた。この他、邦画、邦TVドラマなど比較的価格の高いジャンルが拡大した。この結果、BDソフトの平均価格は前年同期から2%上昇し5,786円となった。ジャンル別のBD比率(金額ベース)をみると、邦アニメが77%と最も高く、洋画も68%と高い比率を維持した。比率が比較的低い音楽は、前年通期から1%ポイント拡大し44%になった。

なお、累計100タイトルに達したUHD Blu-rayソフトは、2017年上半期の販売金額が4億円超と順調に拡大した。

【2017年下半期展望】

2017年下半期のセル映像ソフト市場は、「君の名は。」等の発売により、上半期に比べ減少幅は改善されると見込む。BDソフト市場も、UHD Blu-rayソフトの拡大や、各ジャンルのBDソフトが進むことにより、回復に転じると予測する。

* 全国の映像ソフト取扱店(メディアストア、家電量販店、総合量販店、Eコマース等)における販売実績を基に推計した市場規模

※本レポートに関するお問い合わせ先

GfK ジャパン
広報グループ 茶野 絢子
tel : 03-5350-4623

GfK ジャパン
広報グループ 茶野 絢子
Email : info.jp@gfk.com